

AYUNOSE BRIDGE

矢部町といえば石橋文化。

国の重要文化財である通潤橋をはじめ
数多くの古く貴重な石橋が残っている。

その矢部町に未来への遺産として

「鮎の瀬大橋」が加わった。

緑川が刻んだ深さ140mのV字谷を渡る姿は、
自然環境との調和に配慮しながらも
意外性を感じさせる斬新な構造となっている。

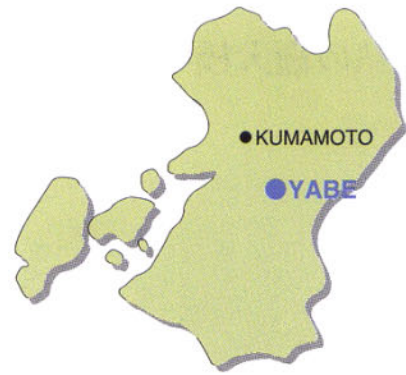
上益城郡矢部町千滝と同町菅地区を結ぶ
約5.7kmの緑川農免農道整備事業の

Kumamoto Artpolis
K・A・P
くまもとアートポリス

熊本県 | くまもとアートポリス事務局
熊本県土木建築課 〒862-8570 熊本市水前寺6-18-1
☎096-383-1111 (6215)

一環として造られたこの橋は、
菅地区から町中心部への所要時間を
自動車です約20分短縮。
住民の生活道路として、また矢部町の
新たなシンボルとしても期待を集めている。



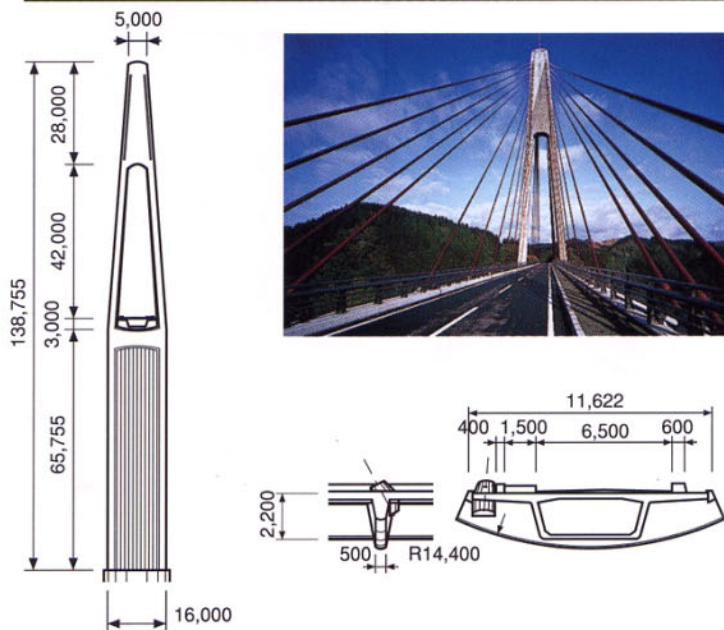
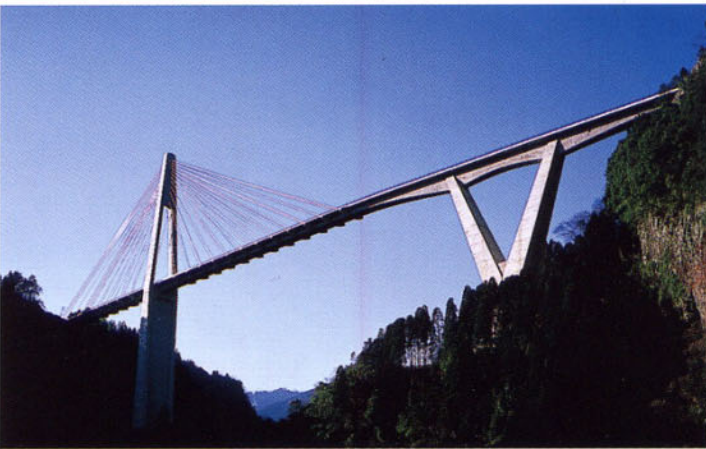
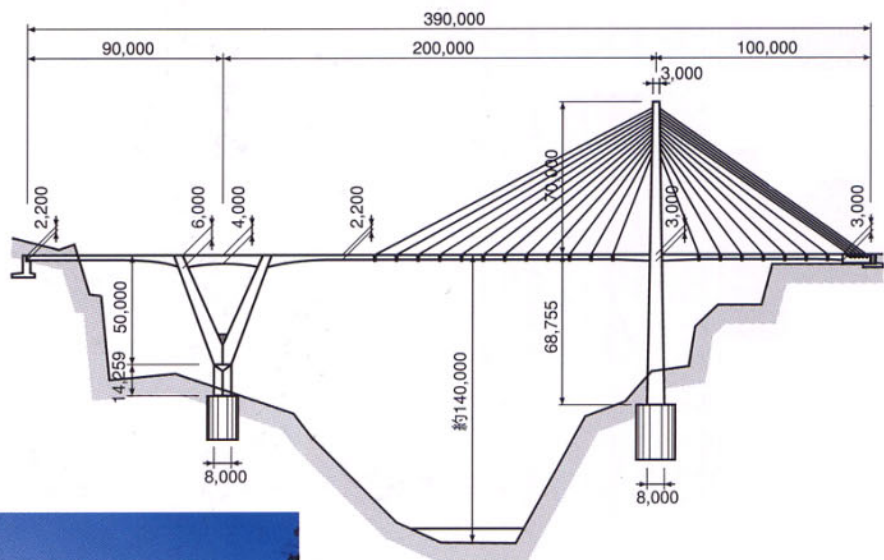
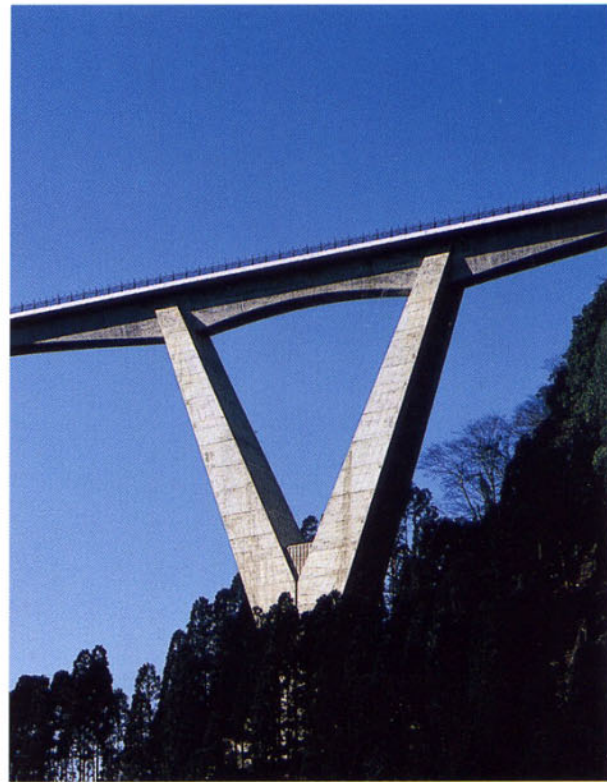


●建築概要

鮎の瀬大橋が架かる緑川渓谷は、阿蘇南麓に深さ140mものV字形のダイナミックな景観を呈している。その風景を活かした橋づくり「橋のある風景」をつくるのがデザインの目的である。谷の片側は開けているが、反対側は山が迫り、しかも谷の斜面の中程に岩棚のあることから、斜張橋とV字橋脚を組み合わせたアンバランスな形態のイメージを地形に重ねた。即ち、開けた側にタワーを、岩棚にV脚を立てた。崖の表面には岩肌が露出し、それにはコンクリートのテクスチャーが馴染みやすい。又、斜張橋の持つ緊張感を強調し、鋭く切り立つ谷の厳しさに対応させた。ケーブルは2面吊り、緑を背景に刻々と表情を変えるメタリックオレンジである。鮎の瀬大橋では「橋を渡ること」に加えて、橋や橋詰に設けた広場から「谷の風景を眺めること」も大切にしている。

●建築データ

名称/鮎の瀬大橋
 所在地/上益城郡矢部町
 主要用途/橋梁
 事業主体/熊本県
 設計者/大野美代子+中央技術コンサルタンツ
 施工者/住友建設+佐藤企業JV
 橋長/390.00m
 有効幅員/8.00m
 タワー高さ/138.00m
 構造/PC斜張橋+ラーメン橋
 施工期間/1993年12月-1999年6月
 総工事費/5,420百万円



●建築家プロフィール

大野 美代子 (おおの みよこ)

1963年 多摩美術大学デザイン科卒業
 1966年 オットー・グラウス建築設計事務所(スイス)
 1971年 エムアンドエムデザイン事務所設立

●主な作品

横浜ベイブリッジ、首都高速葛飾ハープ橋、
 横浜市フランス橋歩道橋、広島市鶴見橋、
 小田原ブルーウェイブリッジ、名古屋港中央大橋 ほか

1985年 日本インテリアデザイナー協会賞
 1977、1986、1989、1994、1996、1997、1998年
 日本土木学会田中賞 ほか